

ソムチッタナ医師

-ラオ・フレンズ小児病院 アダプト・ア・ドクタープロジェクト-



近況報告



以前もお伝えしたかと思いますが、ソムチッタナ医師はラオ・フレンズ小児病院（LFHC）で最年長の小児科医です。ラオスではほとんどの医師がすでに退職後の生活を楽しんでいる年齢ですが、彼女は当院においては、刺激的な存在であり続けています。最年長でありながらも、新人医師や若手医師たちに囲まれて、知恵と知識を分かち合っている姿をよく見かけますが、彼女はこの仕事が大好きだと言っています。

この病院の未来は、新しい若い医師たちの技術が担っていくこととなりますが、院内で行われているレベルの高い医療指導は、当院が無料で質の高い医療を提供するという使命を継続するためにとっても重要なので、彼女はその責任を感じているのです。最近、彼女はシエンクワン県から10時間かけてやってきた2歳の火傷患者を診療しました。この患者は熱湯によって身体表面積の32%を受傷するという重度の火傷を負っていました。このような場合、集中的かつ長期的な治療が必要となり、傷口が感染しないように慎重な管理とその他複数の合併症の予防が重要になります。

適切な治療によって身体的には回復が見られてきましたが、ソムチッタナ医師は、ラオスでは見過ごされがちな精神医学的問題であるPTSD（心的外傷後ストレス障害）の兆候を見逃しませんでした。人生を変えるような怪我を経験した子どもたちの中にはPTSDに苦しんでいるにもかかわらず、精神的なケアはほとんど気が付かれないことがあります。この状況を変えたいと思っていたソムチッタナ医師は、この症例を利用して、院内の医療スタッフへメンタルヘルスケアと心の癒しの重要性に対する意識を高めるよう指南しています。彼女のホリスティックなアプローチはラオスの医療にかけている部分であり、改革の貴重な先駆的存在です。

常に目標を掲げて前進しているソムチッタナ医師に、近い将来の目標を尋ねてみました。すると、彼女はすでに整形外科やサラセミア治療に関する専門的知識を広げ、これらの専門外来の運営をサポートしていきたいと考えていました。彼女の学ぶ姿勢や献身的な行動は、永遠に不滅です！

ソムチッタナ医師へのご支援が単に一人の優れた医師を支援するだけでなく、ラオスの子どもたちのためになる知識と技術の波及効果を生み出すことにつながっています。ソムチッタナ医師は、院内スタッフへ献身的な生涯学習のお手本です。現在そして将来、彼女が指導するすべての医師を通じて、その影響が倍増され続けることをまたこのご報告の中でしていきたいと思えます。引き続き見守っていただけますと幸いです。ありがとうございます。



編集後記：私はソムチッタナの次に最長老なのですが、私が彼女の年になった時、彼女ほど意欲的であり得るのかといつも考え、そして、奮起させられます。今年10周年を迎える病院に開院当初からいたスタッフの一人ですが、今のLFHCがあるのは、彼女のようなお手本がいたからだろうと、いま改めて実感しています。引き続きどうぞよろしく願いいたします。